別紙様式３

令和５年度　【　学園研究費助成金＜ B ＞　】研究成果報告書

学部名　生活科学部

ﾌﾘｶﾞﾅ　ﾅｲﾄｳ　ﾐﾁﾀｶ
氏　名　内藤　通孝

研究期間　令和５年度

研究課題名　名古屋東山周辺における昆虫相の解明

研究組織

	氏　　名	学　　部	職　　位
研究代表者	内藤　通孝	生活科学部	教授
研究協力者	加藤　孝司	椙山女学園中学	教諭

１．本研究開始の背景や目的等（200 字～300 字程度で記述）

名古屋市は、その大部分が都市化され、残された自然環境は縮小しつつある。しかし、その中で、本学が存立する東山周辺にはいくつかの大きな公園があり、比較的自然が残されている。名古屋市の昆虫相については 30 年以上前の報告以降に纏まったものはない。その後の名古屋市東山近辺における自然環境、とくに昆虫相の実態や変遷はどのようになっているのか？　地球温暖化などの環境変化に伴う昆虫相の移り変わりはどのようになっているのか？　相次いで見つかる外来種の名古屋市内での実態はどうなっているのか？　本研究は、これらの概要を把握することにより、今後の周辺環境保護に役立てることを目的とした。

２．研究の推進方策（300 字程度で記述）

本研究では、過去には普通に見られた昆虫で最近は姿を見かけなくなった種や、逆に、最近になって見られるようになった種を報告し、注意を喚起する。これらの中には、外来種のほか、おそらく地球温暖化に伴って分布拡大してきたものや、逆に分布域が北方に後退しつつあるものが含まれると考えられる。また、東山周辺で目撃されるようになってきた外来種には、「なごや生物多様性センター」に掲載されているものに限らず、その数が増加している。本研究は、これら名古屋近辺の昆虫相の変遷および現状についての基礎資料を提供する。これらの成果を小中高、とくに小・中学校の理科教育の一助として活用できるようにするため、研究協力者の加藤（椙中の理科教諭）は、理科教員の立場から、わかりやすく、活用しやすい形でこれらを提供できるよう助言を行う。

３．研究成果の概要（600 字～800 字程度で記述）

本研究は、名古屋東山周辺の昆虫相の概要を、大学の近隣小・中学校に配布し、理科の教育や地域の環境保全に役立てるために実施した。本研究は、内藤個人の観察に留まるものの、同一地域で 60 年以上にわたって昆虫の生態を観察し続けてきたことに意義がある。内藤は、幼少期から約 65 年にわたって名古屋市の東山周辺に居住して昆虫の観察を続けており、2007 年以降、『椙山女学園大学研究論集』に毎年、ある程度纏まった報文として 18 回にわたって公表した。愛知県の昆虫相については、1990～1991 年に公表された『愛知県の昆虫（上）・（下）』以降、単発的な報告にとどまり、30 年以上にわたって、網羅的な報告はない。外来種や絶滅危惧種のレッドリストが「なごや生物多様性センター」のホームページに公開されているものの、一部の種にとどまっている。

今回の企画では、長年の成果を、椙山女学園大学近隣の小・中学校における理科教育や環境保護活動に役立つことを目的とし、東山動植物園周辺の比較的自然環境の残された地域の昆虫相を『名古屋東山周辺の昆虫相』として纏めた。その際、椙山中学校の理科教員である加藤は、冊子を使いやすい形にするための助言を行った。製本された研究成果を広く知っていただくために、本学周辺の千種区、名東区、昭和区の公立小・中学校、合計 38 校と椙山小・中学校の校長・理科担当教員宛に郵送した。また、東山周辺の自然保護に関心を有する識者にも送付した。さらに、これらの元論文は、全て椙山女学園大学の機関リポジトリから無料でダウンロードできる旨を記載し、より幅広く成果を役立てて頂けるようにした。

４．キーワード（本研究のキーワードを１項目以上８項目以内で記載）

①名古屋東山	②昆虫	③外来種	④絶滅危惧種
⑤レッドリスト	⑥環境保護	⑦理科教育	⑧

５．研究成果及び今後の展望（公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他○名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。）

2007 年から 2024 年にわたって、椙山女学園大学研究論集（自然科学篇）に掲載した論文 18 編をまとめ、目次、索引を付すなどして利用しやすい形で近隣の小・中学校に配布した。
『名古屋東山周辺の昆虫相　椙山女学園大学　内藤 通孝　2024 年 3 月』

最終年 2024 年の論文『名古屋東山周辺の昆虫相　Ⅳ. その他　(3) 直翅目、膜翅目、双翅目等と追補 3』は椙山女学園大学研究論集（自然科学篇）に掲載される予定である（2024 年 3 月 1 日発行）。

今回の企画は、長年の成果を椙山女学園大学近隣の小・中学校における理科教育や環境保護活動に役立てて頂くことを目的とし、社会・地域貢献できるものと考える。研究代表者内藤は 2023 年度末で定年退職するが、今後も地域・社会における貢献を続けていきたいと考えている。